

幼稚園小學校研究集會

北海道ワークシヨップに参加して

東京都教育廳指導部

山 村 き よ

北海道小樽市暹徳小學校で九月十一日から十六日まで北海道プロックの研究集會が行われた。全國にさががけて六月に千葉縣市川市の眞間小學校で關東プロックの研究集會（木誌八月號參照）が行われたのについて、最北端の北海道プロックは寒からず暑からずの好季に六日間の日程を以て有意義に終了した。本稿は指導者として派遣された山村きよ氏のものとされたレポートである。

（編集部）

白樺を、落葉松の林を、想像していたもの、食べものは勿論、味噌汁までも列車北海道にワークシヨップの保育擔當者と内に運びこまれる今の旅行は旅の苦勞をして文部省から出張を命ぜられた私は責感じさせないで、昔仙臺市に於て開かれた保育大會に參集した時のことをそぞろに思い出させてくれました。うつりかわつた今の時代、それにつれての幼稚園の今昔、等々、いろいろの想いは汽車中の退屈を大いに助けてくれました。一昔前仙臺市に集つた多くの保育關係者の方々が「幼児教育の義務制」を叫んで總蹶起

となつた後では、美しい仙臺美人の「さんざしぐれ」にうつとりと夜のひとときを過し、翌日は松島の島々をめぐつて數々の想出を胸におさめ、又はフィルムに殘して解散してから十年餘りの今、いたましい戦争の犠牲になつた保母さん達のこと、幼稚園のこと、想いは次々と變る窓外の景色と一諸に走馬燈のように……窓にもたれて何時間かを過して青森驛着、少しも退屈しないまで用意した讀物も隣の上にのせたままですもうとは思いませんでした。午後の波止場は思ひの他辭かで「船室は充分席がありますからいそがぬように」と親切な驛係員のアナウンスも私の心をやすめてくれました。

X X X

乗船したのは摩周丸という大きなきれいな船。船を心配して二等船客のお仲間入りをした私はまず落ちついて故郷の人々に便りをかき始めた。波静かな海面を音もなくすべつて行く船の中は、ふだん自分の机に向つてペンを起らせているときと同じ気持ちで、かつ外國だと思つていた北海道に一秒々近づいていゝる事など忘れ平穩無事な航路が私の重い責任の半ばを片付けてくれるような無上の喜びを感じてまづ一休みと横になつた間もなく呼びおこされて下船の用意のあわてたこと汗びつしよになつて函館構内を駆け出して一行から笑はれました。いよ北海道え足を踏み入れたと思つた瞬間はつとしたものを感じました。隣りに座られた婦人客は船の中でもとなり合せて仲よしになつたお客様「旅は道づれ」と昔の人の言つた言葉を味わつて……内地と變つた窓外の様子も、その他のもの珍らしい北海道特有のポプラも、北海道の風景畫が今實物となつて目の前に見える不思議さを夢みるような心地で

なにか口ずさみ度いような私の氣持を知つてか知らずか、おとなりの婦人客のお話し上手なこと半分以上を一人で話されて六時間餘りの車中を退屈させないで相手をして下さつた旅なれた方は札幌市内に大きな病院をもつて居られるとか大自然に恵まれた廣いお庭、ベーチカのお話等々皆羨しいことばかりでした。

午後八時半小樽驛着、夜分にもかかわらず出迎えて下さつた道教委の指導主事の先生方や、量徳小學校校長梅津先生のはりきつた御様子に私も又緊張した氣持に立ち歸つて宿舍旅館におさまつて夕食もそこへ文部省の先生方と明日の打ち合せをなさる皆様のはりきり方に明日からの重い責任が又々私を不安の状態に追い込みました。しかし三日ぶりにゆつくり湯おねにつかつて旅のよこれをおとしその夜ぐつすり眠れた翌朝のすがすがしい氣分に、つくづく自分の「健康體」の喜びを感謝せずには居られませんでした。

九日午前十一時にCIEのミスアンブローズ女史到着という豫定が、汽車から

降りられて一寸も休憩なしに九時半會場校量徳小學校着という報らせをうけた學校側のお氣の毒なこと……開衿シャツ一枚になつて一生懸命指圖して居られる教頭の堂城先生始め道教委の皆様方にはほんとお氣の毒でした。しかし永い汽車のつかれも休まず學校にのり込む女史の元氣旺盛なお仕事ぶりにもうたれるものがありました。それから二日間、道教委の指導課の先生方、學大の先生方、文部省の先生方、各班別の議長の先生方三十餘名がワークシヨップの爲の細い實に綿密なサゼツションをうけて後、十一日から十六日まで一週間を一生懸命勉強いたしました。

私共の擔當した第八班(幼児教育)のメンバーは二八名で(幼・教諭十三、小十二、その他三)公立幼稚園は一ヶ所もなく宗教關係の經營になる特殊な立場にある先生方であることが研究討議の場合の問題をむづかしくするような事がなければと一抹の不安を以てグループスタディーに入りましたが、第一日目の不揃いな出席が整理された二日目からはほんと

に氣持ちよく勉強することが出来たことに小學校の先生方の中には第八班の人数不足の爲(第一日の)に無理やりにかり出された方もあつて、ほんとに第一日、第二日の進行には議長さんとして御活躍下さつた道教委の鈴木よし先生、指導責任者の學大奈良先生、長谷川先生の御援助を心から感謝いたしました。日々の研究の様子はいづれ道教委から研究集

録となつて發表される事と思ひますし紙面にもかぎりがありますので、私はグループの活動によつて私共が各々自分の體驗を基として問題を見つけ發表し合つて、それらを文献の裏づけによつて、まがりなりにも一應のまとめをつけて次の様な結果を得ました事だけお知らせいたします。

第八班 幼児教育の問題

指導者 文部省 山村きよ
學大 奈良 一三
同 長谷川 龜雄
司會者 道教委 鈴木よし
(議長)

第一日

○議長の紹介、正會員出席の確認及び座

席の決定、自己紹介を終えて副議長(コース幼稚園佐藤和子氏)決定、ディスカッションの持ち方について説明する。

○班別研究の時間の割當の説明をする。

○問題の選定。

北海道としての題目について各自の意見をのべる。

○決定

(1) 幼稚園教育はなぜ必要であるか

1 幼稚園の目的は何か

2 幼稚園と小學校との相互に協力する必要のあるわけ

3 どうしたら一般社會の人に幼稚園の必要性を認識させることが出来るか

(2) ガイダンスの問題について

1 幼児を理解する方法や、記録の方法についてどんな知識が必要か

2 指導についての教師の態度と人格

3 指導の方法

4 評價と發達の記録

○直に第一問第一項について研究討議し

参考書を指導、貸出しをする。結論は明日の豫定

第二日 (指導者・司會者・前日に同じ)

◎昨日よりの問題について各人の研究を發表し合い次のようにまとめた。

1 幼稚園の目的は何か

○より美しい適當な環境を與える

○家庭的な雰圍氣の中に集團生活を經驗させる

○日常生活に於けるよい習慣をつけさせる

○幼児の伸びようとする力を助長する

○身體の健全な發達を計る

○感謝の心を養ふ

◎次の23の項目はグループを分けて研究した

第一グループ 指導者(山村・長谷川)

司會(鈴木)

2 幼稚園と小學校との相互に協力する必要があるわけ

A 北海道の子供の幸福のために

B 小學校と幼稚園は同じ教育體系の中にある。その教育方法の連絡理解のために。

○相互に參觀し協議し合ふ

○相互のカリキユラム交換

○相互の児童及びその家庭の觀察と理解

○小學校では保育をうけた者と受けない者との教育的調査をする

○小學校、幼稚園教諭同志の親睦をはかる

○なるべく行事を通して双方が参加し楽しみ合ふ

第二グループ 指導者(奈良)

司會(佐藤)

3 どうしたら一般社會の人に幼稚園の

必要性を認識させることが出来るか

○幼稚園の發表會を園の内外の場所で開催

○小學校入學初頭に調査した(保育を受けた者と受けない者の)資料を公開(學業成績ではなく日常生活の實態の中から社會性の發達面等教育的調査)

○幼、小、教諭と就學前幼児保護者との懇談會を持つ

○新聞、ラヂオ公共的な機關を通じて

幼稚園の必要性を知らせる

○一般幼児の爲に移動幼稚園を設けて保育する

○幼児教育研究會を開いて性格形成上缺くことの出来ない大事な時期であることを知らせる

第五日目

昨日よりつづくガイダンスの問題について

第一グループ

指導者 文部省 山村きよ

學大 長谷川龜雄

司會 道教委 鈴木よし

直ちに小グループに分れA班(五名)

は1より4までの、B班(五名)は5より9までの行動に對しての指導性を研究討議し次頁の表の如き結論になる。

第二グループ 指導者 學大 奈良一三

司會者 佐藤和子

評價と發達の記録について左の如き結論に達した

一、身體的生活

1 食事の仕方がよい

2 身の始末を自分でする

3 よく手を洗う

4 體を綺麗にしている

5 みなりをきちんとしてゐる

附 怪我や病氣故障の記録

二情緒的生活

1 落付いてゐる

2 ユーモアがある

3 物事にこだわらない

4 気分がむらがない

5 かんしゃくを起さない

6 しつとしない

7 すねない

8 恥しがらない

9 臆病でない

三、知的生活

1 音楽 1 興味 2 理解 3 表現

2 図畫 1 " 2 " 3 "

3 工作 1 " 2 " 3 "

4 お話 1 " 2 " 3 "

5 自然觀察、關心、理解

6 敷に關して、興味、理解

7 社會的な事柄に興味をもつ

要 求	行 動 の 質 例	指 導 法
1 独占的な要求	<ul style="list-style-type: none"> ○先生のそばを離れない ○自分のものを他人にかさない ○けんかをする ○他人の物をうばいとる ○他人の注目を引きたがる 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭的に恵まれぬ子供には特別に愛情と同情を以て接する ○共有物を利用し共同遊びを通して導いていく ○自他のものの區別をつけさせる ○我が儘なため教師からはなれぬ子供は關心を他に轉換させる
2 友達を求めめる	<ul style="list-style-type: none"> ○未知の友達もすぐなれる 	<ul style="list-style-type: none"> ○社交性のうすい子供には教師が友達を選択してやる
3 創造的要求	<ul style="list-style-type: none"> ○繪をかく、ものをつくる ○おどりをする ○歌をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師はこれを助長する爲によい環境をできるだけ整へてやり努めて干渉をさける ○比較的創造力のうすい子供には創造力の強い子供の側におく等して刺激を興える
4 物を集める要求	<ul style="list-style-type: none"> ○何んでも集める 	<ul style="list-style-type: none"> ○あき易い子供には完成の喜びを體驗させてはめてやる
5 空想的な要求	<ul style="list-style-type: none"> ○おとぎ話を求む ○紙芝居、映畫、幻燈を喜ぶ ○話をつくるうそをいう 	<ul style="list-style-type: none"> ○子供の發達のためになる蒐集は出来るだけのばす ○子供の發意を尊重する ○宗教的な芽生えを助長する
6 求知心	<ul style="list-style-type: none"> ○何んでも聞く ○何んでも見たがる ○何んでも觸れたがる 	<ul style="list-style-type: none"> ○子供らしいうそは極端におえない ○子供の求めているものの目的を理解する ○問に對して出来るだけ満足を興える ○むやみに叱らない
7 活動的な要求	<ul style="list-style-type: none"> ○じつとして居れない ○高い所に上りたがる ○走る、おどる、けんかをする 	<ul style="list-style-type: none"> ○組立、分解の自由な遊具を興える ○個性を重んじて自由な活動をのばす ○常にやわらかな雰圍氣の中におく ○活動の障害になる危険はすみやかにとりのぞく
8 優越感	<ul style="list-style-type: none"> ○危い所へ平氣でいく ○小さい子供を可愛がる 	<ul style="list-style-type: none"> ○あやまつた優越感は早くおす
9 愛情に對する要求	<ul style="list-style-type: none"> ○小動物を可愛がる ○小さい子供を可愛がる ○甘えたがる 	<ul style="list-style-type: none"> ○健全な愛情で接する ○子供のほんとうの友達になつてやる ○不公平な態度をとらない
10 生理的要求	<ul style="list-style-type: none"> ○運動 ○食事 ○睡眠 ○休養 ○排泄 	<ul style="list-style-type: none"> ○動物や植物に對する愛情をのばしてやる ○精一ぱい遊ばせる ○規則正しい衛生的な習慣をつくらせる ○出来るだけ自分のことは自分でさせる ○性的要求については善導する

備考 ○10の生理的要求については昨日、削除されたが身體的な面より種々考えこれを再検討し項目の中に入れることに決定した。

○又指導全般に亘り、指導上の基本として次の二項目をとりあげた。

(1) 子供を先づよく觀察しその行動の原因をつきとめそれを善導していく。

(2) よい習慣の早期形成を心がける。

四、社會的生活

- 1 自分ばかりを主張しない
- 2 友達をいたわりお世話をする
- 3 自分の事は自分でする
- 4 きまりをよく守る
- 5 間違つた時にあやまる
- 6 人の話をよく聞く
- 7 ごつこ遊びがよく出来る
- 8 うそを言わない

右の品等法は三段階とする。

五、行動の發達と記録

- 1 友達とよく遊ぶ
- 2 他を認め自己を主張する
- 3 自分より小さい者をいたわる
- 4 責任を重んずる
- 5 禮儀正しい
- 6 きまりを理解して守る
- 7 安定感がある

最後に私がミス・アンブローズ女史から受けたサゼクションの中でどうしても皆様にお伝えしたいと思ふことを二三のべておわりにいたします。

○何かの研究にあたる場合には必ず大

きな問題を細い項目に分けて考え、

一つ／＼を正しく研究すること。

○研究項目について一つ／＼研究した

事を必ず具體的に(その研究過程)

書いて見る又一人／＼が研究した事

を發表報告し合ふ(その場合どんな

小さな問題でも、又發言の内容が貧

弱でもとりあげて考えること、二三

の少ない人の發言や研究を中心にし

て結末を早くつけないこと)

○自分の體驗したこと、研究した事を

ありのままに紙に書き表はすことが

研究の第一歩で又一番大切なことだ

ある。(下略)

(三六頁より)

そのお友達が何々と次に表現する動物の名を

いう)をしました。どのレクリエーションよ

りも、優れた効果をあげ、満場破れるような

拍手喝采をなくし、其の日から幼稚園の先生

の眞價が大いに認識され、翌日の授業評價の

時には、指導主事の意見として「今までどう

も幼稚園の先生のように、子供の生活の中に入

つて、指導するという點がかけていた。此

の點我々は幼稚園の先生に大いに學ぼうでは

ないか」と云つて戴きました。又閉會の時の

縣當局者の挨拶の中でも「幼稚園を可愛がる

う幼稚園を參觀して幼稚園の先生に教えても

らおう」という言葉がいく度か聞かれ、この

集會は幼稚園の認識を高めて貰うための會であつたようにすら感じられたことでした。

(一六頁より)子供との關係に於てどうだつたか、自分の豫想や期待に對してどうだつたか。これは自分ばかりでなく、同じ職にある友達と話し合うのも大に意味がある。多分何等かの不満不足を見出さないことはあるまいと思ふ。

私なども度數に於てどのくらい子供たちに話したか知れないが、未だ嘗て「これで充分、これで満足」ということがあつたためしがない。つくづくお話の世界の奥深いことを感ぜざるを得ない。恐らくそれは無限であらう。努力は無限であり、骨折は無限であり、精進は無限であるだろう。しかし、だからこそその意義も無限である。喜びも無限であり光榮も亦無限であるだろう。